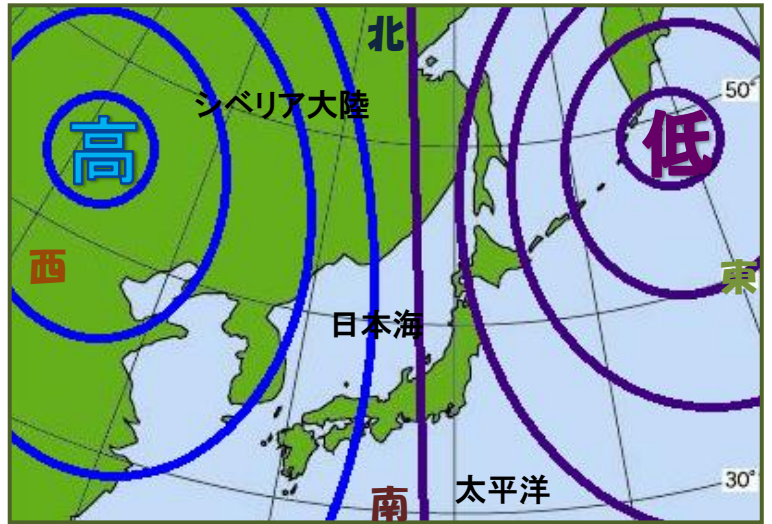


ゆき ふ 雪が降るしくみ

天気図で西高東低をさがせ!

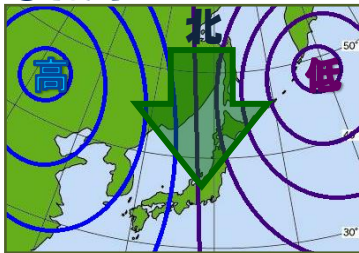
テレビや新聞の天気予報で、日本の地図に丸や線、高や低の字がある「天気図」をさがしてみてください。冬に、日本の西に「高」気圧、東に「低」気圧があるときは、雪が降りやすくなります。

さらに、石川県のあたりは、たて線になっていると、もっと雪が降りやすくなります。



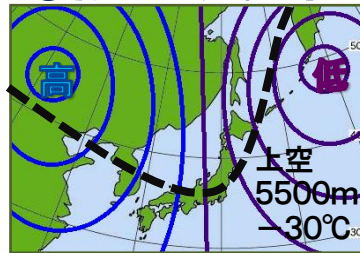
西高東低になると...

①北風がふく



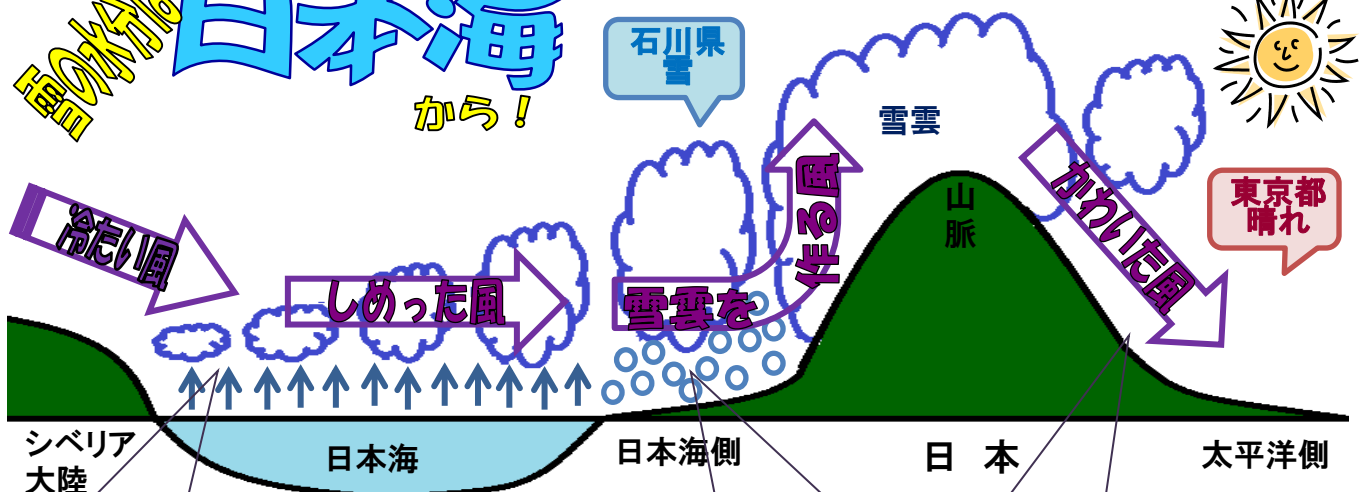
たて線にそって北風がふく。北風は、北にある冷たい空気が来るので寒くなる。

②北から寒気が下りてくる



北風が運んできた冷たい空気が、地上で5°Cより低いと雪になる。雪は空の上でできる。上空5500mで-30°Cより低くなると、雪がつくられる。

風の中は日本海から!



海水は2°C。風は-10°C。海水は温かく、多量の水が水蒸気になる。しめった風になる。

上昇する風は雲を作る。寒いので水蒸気は雪雲になる。雪雲から大量の雪が降る。

雪を降らせた後でかわいている。「カラッ風」と呼ばれる。

もし、雪が降らないと!

- ☆おいしい水がなくなる
- ☆おいしいお米がなくなる
- ☆おいしい魚がなくなる

雪が降ると、登下校が大変だったり困ることも多いのですが、おいしい「水、米、魚」が食べられるのも、雪のおかげです。雪となかよくしていきたいですね。



2/3 (日) は 節分

せつぶん



節分といえば「豆まき」。節分は2月だけだと思いませんか。節分は四季を分ける日で、1年に4回あります。下図は二十四節気といい、季節を現すために工夫して、1年を24に分けたものです。自然をたくみに表していますね。



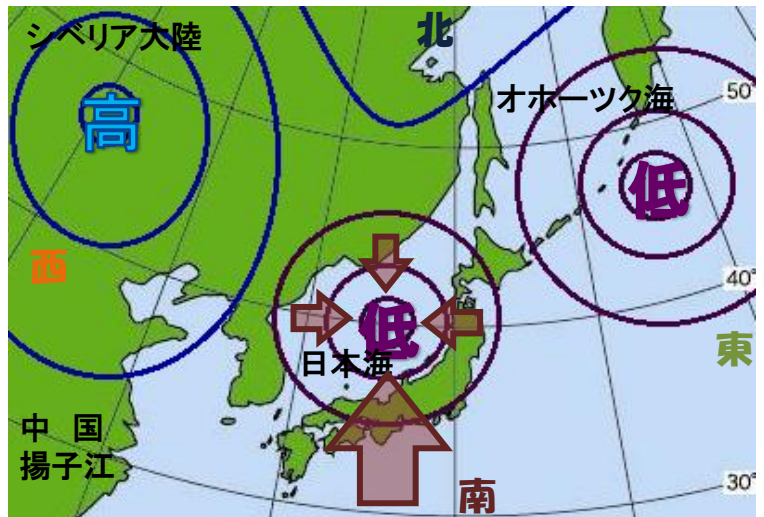
<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/lcs/20100202/1030930/?P=2>

しょうかん 小寒	1月 15日	気温が低く寒い時期。寒さがましてくる。
だいかん 大寒	1月 20日	寒さが最もきびしいくなる。
りっしゅん 立春	2月 4日	春の始まり。寒さはきびしいが、気温が上がり始める。
うすい 雨水	2月 18日	雪が雨に変わり、氷がとけて水になる。
けいちつ 啓蟄	3月 5日	冬ごもり中の虫が目をさまし、姿をあらわす。
しゅんぶん 春分	3月 20日	昼と夜の時間が同じで、真東から太陽がのぼる。
せいめい 清明	4月 5日	心地よい風がふく気持ちのよい。草木の芽がでる。
こく 穀雨	4月 20日	イネなどの穀物(コクモツ)を育てる雨が降り、芽がでる。
りっか 立夏	5月 5日	夏の始まり。

はる いち ばん 春一番

立春がすぎると、日本の南を通っていた「低」気圧が、どんどん北の方を通るようになります。その年最初に「低」気圧が日本海を通るとき、その「低」気圧にむかって風がふきこみます。この強い南風を「春一番」といいます。

- ☆立春～春分までにふく、強い南風
- ☆日本海に低気圧がある
- ☆南風はあたたかく、気温が上がる



**春一番が
ふくと!**

- ☆気温が上がり雪がとけ、なだれやこう水がおきやすくなる。
- ☆強い風で海がしけ、海難事故がおきやすくなる。
- ☆強い風で木や建物がふきとばされる。 と、春一番はこわい「天気」です。

**春一番の
次の日は**

日本海を通った低気圧は、北海道を通り、その東にある低気圧と合体します。すると「西高東低」になり、また寒くなり雪がふります。立春～春分の時期は「三寒四温」と言って、3日間寒い日が続き次の4日間は温かい日になります。そしてどんどん寒い日がへり、あたたかい春になっていきます。



冬から春へ、天気の違いを天気図から感じとろう!



